



稲穂

豊崎小学校 校長室通信

令和5年 6月13日

第3号 文責 久保 亨

「多数決」は正しいのか？ ～誰一人置き去りにしないために～

先日、「いのちの会」を行いました。6年生のリーダーが、グループで植える花のレイアウトについて、下学年の意見を聞きながら、多数決で決めていました。6年生が、自分がリーダーだからといって勝手に決めてしまわず、年下の子の意見を取り入れ、全員に意思表示をもらって決めており、とてもよい進め方をしているなど感心して見ていました。



ところで、「多数決＝民主主義」…そんなイメージをもっている方が多いのではないのでしょうか。実は、私も以前はそうでした。

例えば、学習発表会で出し物を決めるとき、最終的にA案とB案が8:2で分かれたとすると、ほぼ例外なく多数決でA案を選んでいました。大多数の子どもたちが満足できるからです。さらに、「反対意見だった人も、みんなで決めたことには従おう。」などと言っていました。

しかし、ある時、それは「多数者の専制」ではないか、と指摘されました。「少数派の意見も尊重しよう」「ダイバーシティが大切だ」と言っているながら、有無を言わず少数派を切り捨てている…。全くその通りだと思いました。誰一人置き去りにしない教育をしようと言っているながら、時間がないから、などと言って、少数派を置き去りにしている…。常に対話を通じた合意形成をしていくことが民主主義なのではないか、という意見に、目を開かされた思いでした。

多数決が常にダメだ、というわけではありません。必要な場合はもちろんあると思います。どの案になっても、誰の利益も損なわないようなものであれば、多数決は有効な手段です。花の植え方のレイアウトもそうしたものの一つだと思います。どのレイアウトになっても、誰かの利益が損なわれるわけではありません。

ただ、いつでも多数決で決めればよい、というように、私たち大人が思考停止の状態になってはいけません。できるだけみんなで話し合い、対話を通して、誰の利益も損なわないような着地点を見出していく。それこそが民主主義だと思います。時間はかかりますが、誰一人置き去りにしない社会の実現のために、理想を追求していきたいと思っています。



ツバメさん、今年も学巣中！

今年もツバメさんが学校の玄関に学巣中です。昨年は、寒さのためかヒナが一度、全滅してしまいました…。今年は、全員、元気に育ってくれることを願っています。